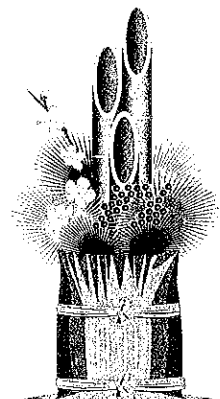
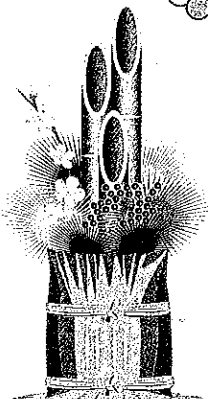


# 九州兼喜

2017.1

No. 128

## 賀 2017 春



謹んで新年の  
ご祝詞を申し上げます

平成29年 元旦

# 年頭のご挨拶

九州兼喜会  
会長

篠森 義晴



新年明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様方におかれましては、素晴らしい新年をお迎えになられたことと、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は皆様方に多大なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も変わらぬ御厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、英国がEUを離脱したり、米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利したり、お隣の韓国では大統領が前代未聞の不祥事の容疑者になったりと、世界の政治・経済を揺るがすような大きな出来事が多々起こりました。また国内におきましても、全国各地で相次ぐ事件や事故、大きな地震も頻発しており憂慮する次第であります。

又、我々建設業界におきましても、博多駅前の道路陥没など様々な問題が起こりました。

しかし、私共、九州兼喜会にとって最も大きな出来事は、平成28年熊本地震であります。4月14日の夜9時26分、熊本県益城町で震度7を観測したのを皮切りに、その28時間後の16日深夜の1時25分にマグニチュード7.3の本震にみまわれ、その後、大小合わせて4000回以上の余震が発生し、九州にとって未曾有の大災害となりました。

今回の震災で尊い命を亡くされた方々に心よりご冥福をお祈りいたしますと共に、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、熊本県以外でも、大分など隣接する地域でも被害が出ており、今日現在も復興にむけて大変なご苦勞をされています。私共のできる最大限の協力を惜しみなく果たすとともに、被災地の一日も早い復興を心よりご祈念申し上げます次第であります。

清水建設様をはじめ、全国の兼喜会の皆様にはあたたかい励ましのお言葉や支援物資、そして身に余る程の義援金、誠に有難うございます。被害に遭われた兼喜会・防災協会の皆様は謹んで納めさせていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1回目の大地震が発生した夜、これは大変な事が起こってしまったと思い慌てて支店へ駆けつけました。まだ地震が発生して30～40分位しか経っていなかったと記憶しております。そこには、清水建設の皆様がすでに多数駆けつけており、震災対策室を機敏に設営されておりました。その後も続々と清水建設の皆様、そして兼喜会のメンバーも集結し、着任早々にもかかわらず、

梅津支店長様の迅速な指示の元、被害の調査、人員・物資の手配、応急処置と次々に善処される光景を見て感銘を覚えた次第です。その対応の早さと正確さに驚愕いたしました。日頃の訓練と意識の高さが如実に現れたシーンであったように感じました。後日談ですが、ここまで迅速な対応をしたのは清水建設様以外なかったと聞いております。有事の際にこそ真価が問われるものだと思います。改めて清水建設と兼喜会の絆の深さを目の当たりにし、九州は一枚岩であると確信いたしました。

九州の中心に位置する熊本でこのような大きな災害が発生したことは、誠に痛恨の極みではありますが、熊本の皆様にとっては心の支えである熊本城が大変な被害を受けたことはとても大きな悲しみであったと聞いております。

しかし、被害は大きかったのですが、築城の名手である加藤清正公が積み上げた天下一流の石垣があったからこそ、全壊は免れたのだと思います。

強い屈強な石垣があってこそ、美しい威風堂々たる城郭がそびえ建つわけであります。改めて石垣の肝要さ、土台の尊さを感じました。まさに人は石垣、人は城であります。我々九州兼喜会はより強固に結束し、強い石垣となって清水建設様を支える土台となるよう邁進して参る所存であります。

そして、その石垣の源泉となるのは、やはり最前線で日々奮闘している職人であります。実直で優れた職人衆がいるからこそ石垣となれるのであります。

11月3日に清水建設九州支店の主催で2回目となる技能オリンピックが開催されました。今回は型枠と左官が競技種目に選ばれ、九州・沖縄各地より選りすぐりの職人が集まり、高度な技術や精神力・集中力を遺憾なく発揮し、筆舌に尽くしがたいほどの素晴らしい競技大会となりました。競技に真直ぐに取り組む出場者の姿、それを見守る親方や家族、いつかこの舞台に立ちたいと眼を輝かせている若い職人、そして、心から応援する観客。捨てたものじゃない、建設業の未来は明るい。まだまだ人は集まると確信いたしました。今こそ暗いイメージの「きつい・きかない・危険」の古い3Kから脱却し、新しい3K「給料が高い・休暇が多い・格好良い」へとシフトチェンジするべきであります。我々建設業界には数々の諸問題が山積している事は重々承知しておりますが、技能オリンピックに出場された職人の皆様を見ると、一刻も早く新しい3Kへとシフトチェンジしなければ、素晴らしい新芽が潰される、潰れていると感じるのです。夢や希望で満ち溢れていた以前の様な建設業界に一日も早く戻りたいと強く切望する次第であります。

我々九州兼喜会は、素晴らしい職人を育て、安全・品質共に清水の名に恥じぬ仕事を、強い意志を持って敢行し、清水建設様の強固な石垣となれるよう、精一杯努力する所存であります。何卒、ご指導の程、お願い申し上げます。

皆様方にとりまして、2017年が素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げて、新年の挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。

# 年頭のご挨拶

清水建設(株) 九州支店  
常務執行役員支店長

梅津 誠二



新年明けましておめでとうございます。九州兼喜会の皆様におかれましては、つつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は一方ならぬご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年4月14日夜及び4月16日未明に震度7を計測した熊本地震が発生いたしました。被災された九州兼喜会ご関係者の皆様にはあらためて心よりお見舞い申し上げます。当社九州支店では被災状況調査を482件実施し、うち263件につきましては復旧作業が完了いたしました。なお、現在も41件の復旧工事を行っている最中であり、まだまだ復旧が完了したとは言いきれない状況です。今後も引き続き全力で復旧作業に当たっていく所存でございます。

全国の兼喜会の皆様には、熊本地震において多大なご支援をいただきましたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。震災時には迅速な対応をしていただいたことに感謝するとともに改めて兼喜会の存在の大きさを感しました。地震発生当初から熊本をはじめ被害が確認された各地に応援に来ていただき、現在も多くの九州兼喜会の皆様には熊本の復旧工事をはじめ様々な作業所においてご活躍いただいています。中には沖縄地区から応援に駆け付けていただいた協力会社様もいらっしゃるや、九州兼喜会をはじめ全国兼喜会の皆様のご強固な結束力、大変頼もしく感じた次第です。今後とも清水建設と兼喜会の関係をさらに強めていただきたくお願ひ申し上げます。

さて、昨年4月に九州支店に着任以来、兼喜会の皆様とは各所で交流の機会をいただきました。6月の安全週間準備月間にはすべての地区の安全大会に参加させていただき、多くの方々と交流させていただくことができました。その中で多くの意見を拝聴することができ、大変貴重な機会となりました。安全大会だけでなく、各地の兼喜会の皆様と懇親会の機会も設けていただき、さらに良好なコミュニケーションの場となりました。各々の地域の特性、人柄、市場などますますすべてが理解できているとは思いますが、肌で実感しているところです。

また、11月には第2回技能オリンピックを初めて拝見いたしました。一昨年の第1回大会では薙工・鉄筋工の皆様の技能を競う姿をご家族を含めた皆様の前で披露されたと聞き、第2回大会を拝見することを大変楽しみにしておりました。今回の型枠工、左官工による競技が始まると、それぞれの仕事に対する情熱と日々の仕事で培われた高い技能に感嘆させられました。慌ただしい現場での仕事の中では他業種の仕事ぶりをじっくりと見ることができ、機会はなかなかないと思います。そういった意味でもこのような技能オリンピックの開催は大変意義深いものであり、お互いを刺激し合い、技能を高める良い機会なのではないでしょうか。今年の開催も今から待ち遠しく思います。

一方、現在、労働環境について注目が集まっています。建設業においては特に注視されており、当社ではワークライフバランスの観点から「ノー残業デー」を設定して1年半が経過し、また代休取得を徹底させるような体制作りを進めています。建設業を魅力ある業界にするため、

まずは労働環境を改善させてこれまでのキツイイメージを払しょくし、数多くの若手技能者が快適に働いていけるような環境を目指していきたいと思っております。作業所の週休2日制や技能職の方々の賃金改正の達成に向けては生産性のさらなる向上など取り組むべき課題が山積みです。兼喜会の皆様にはぜひともご理解いただき、ご協力賜りたいと思います。

さらに重要なことは建設業の使命ともいえる安全・品質の確保です。ここでは、安全について触れさせていただきます。平成27年度は4日以上不休災害2件、不休災害47件(うち11件が熱中症)という成績でした。一方、平成28年度11月末現在での集計では死亡災害1件を含む休業災害3件、不休災害が65件で、いずれも昨年同時期を上回っています。度数率は0.65、強度率は1.63となっており、九州支店は全社を上回ってしまっています。各地の安全大会でも申しあげましたが、私が安全について心がけていることをここで改めて強調させていただきます。

- ①整理整頓は安全の第一歩
- ②手順の重要性と一人KY、声掛けの大切さ
- ③あご紐締めて、気を引き締めて
- ④技術的な確認を数値で行う

それぞれもう一度「正しい手順で行われているか」「危険は隠れていないか」と自問自答し、改めて安全について向き合っていたいただきたいと思います。そして、まずは年末年始労働災害防止強調運動の期間である1月15日までを、そして今年度いっぱいは無事故無災害で乗り切っていきたいと思います。

ここまで申し上げてきたことから、今年は以下の2点について注力いたします。

## ①安全・品質の確保を改めて見直す

具体的には先に述べた①～④を基本にして

- ・個別検討会では実際にそのまま日々使える計画図、手順書を使う。
- ・情報が迅速に伝わる組織としていく。
- ・経験を大事にしつつ、常に正しい技術的見解から各工程を確認することを徹底する。
- ・現場パトロールの際には安全、品質、工程、雰囲気等現場全体を見渡す。

安全・品質は当社と兼喜会との関係と同じように、車の両輪です。安全・品質はきちんと守られなければ人の命と会社の命を落とすことになります。それを守っていくためにも当社と兼喜会との強力な連携が必要です。今年はその連携をさらに強め、しっかりとした体制を構築していきたいと考えています。休業災害ゼロ、品質不具合・後請ゼロを目指すことにご協力お願いします。

## ②労働環境の改善

- ・受注時の条件として土曜閉所を組み込んだ工程を作成することにより、作業所閉所日の増加を促進する。
- ・労働時間は無駄の排除と働き方の改善、効率化によって削減していく。
- ・作業所の環境は女性のみでなく作業されているすべての方に快適さを感じていただくよう工夫していく。

私たちのDNAには「論語と算盤」が組み込まれており、その根本にある「算盤を手にとりて財産を得ようとする」ことは、決して悪いことではない。しかし、算盤の基礎を社会正義のための道徳の上に置かなければならない」という渋沢栄一翁の言葉を心に刻み、経営の本質である「責任」を果たしていくことを改めて考えていきます。

これらの推進は、皆様のご協力、連携があつて初めて成し遂げられることです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

結びになりますが、九州兼喜会の皆様のご隆盛とご繁栄を祈念し、また平成29年が皆様方にとって素晴らしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

# 第25回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部  
株式会社 石戸塗装

石 戸 圭 介

平成28年11月17日(木)～18日(金)に東京京橋清水建設本社12F1201・1202会議室において清水建設全国連合兼喜会第25回後継者育成研修が開催され九州支部より3名が参加致しました。

昨年に引き続き清水建設様のご厚意により、研修会場として本社の12F会議室をお借りしての開催となりました。

初日は東京兼喜会青年部 木下 清輝部長の司会のもと、清水建設全国連合兼喜会 青木 茂副会長より「人手不足やIT化の進む中、専門業者は何を求められているかを理解した上で意欲ある若手リーダー達が全国より集い、変革の対応・将来の展望を迫及し、将来の建設業を支える若い力を育てる目的で開催する運びとなった。」と開会及び趣旨説明がありました。

次いで全国連合兼喜会 中橋 博治会長より「我々建設業に携わる者としましては大きな問題をたくさん抱えている。熟練の技能者の減少、若手人材が建設業に入っていない状況。社会保険未加入問題。そうした状況の中、安全・品質・工程の確保が大きな課題である。特に社会保険の加入状況の問題については来年度の4月から本格的に始まるので体制を遅くとも年内までには整えていく必要がある。」とお言葉を頂きました。業界全体の問題であるので弊社の下請会社にも加入促進に取り組んでいる現状であります。また安全についても触れられ「今年度の10月末現在の清水建設全社としての、死亡災害1件、休業4日以上35件である。昨年度死亡災害ゼロを達成していたので来年度はゼロ達成できるように日々の災害防止活動に取り組んでいきたいと考えている。」と話されました。死亡災害は絶対にあってはならないことなので、現場で働く者全員で考え実行していこうと再認識致しました。

その後、清水建設様より4名の幹部の方々からご講和を頂きました。はじめに代表取締役副社長 建築総本部長 寺田 修様よりご講和があり、主に

①2016年度上期の業績（受注、決算について、大型案件について）

②建築土木共通 全社としての生産体制の構築

③今後の課題

④2020年以後について

4つの事項についてお話しを頂きました。

①2016年度上期の業績は国内は1兆400億円を目標に9月末現在で4702億円年度見込みほぼ達成されている。決算については1兆2000億に対して9月末現在で4439億円年度見込みほぼ達成されている。

大型案件について(上期の業種)

北海道 新千歳空港改修工事、

九州 福岡空港改修+新築工事

東京 東京団地冷蔵再整備工事、

オリンピック施設(都心部)

国際展示場増築工事

有明体操競技場新築工事、

虎ノ門トラストシティワールドゲート新築工事

などの大型案件を受注している。

②建築土木共通(総本部)

全社としての生産体制の構築

生産性向上へのチャレンジとして納まり確認の効率化

Simz AR Eyes(拡張現実)による現地確認、ICT活用によるコミュニケーションの重要性

施工管理の効率化→時間の無駄削減

③今後の課題

建設投資と技能労働者の推移はオリンピックまではほぼ横ばい。その後は建設投資は最大で10%減少の予想

技能労働者は10年後343万人から216万人(33%減少の予想)

④2020年以後について

担い手の確保→90万人確保(女性など)

生産性向上→35万人の省人化(10%)

2020年までが業界正常化のラストチャンスであり、清水建設と兼喜会は車の両輪であり自立した関係、お互いに責任を持つことが重要であると教わりました。

次に代表取締役副社長 土木総本部長 岡本 正様よりご講和があり、主に

①土木部門の案件

②品質確保

③発生した不具合の事例

3つの事項についてお話しを頂きました。

①土木部門の案件

東京支店 シールド工事、東大地下 ケーソン工事

四国支店 風力発電

国際支店 フィリピン2,2km道路バイパス

九州支店 大分自動車道 復旧(熊本地震)

などの案件がある。

②品質確保

積雪により雪が解けないままコンクリートを打設した為空洞化してしまい橋脚が崩落した現場があり、その事故を風化させることのないよう品質大会が毎年8月31日に行われている。

③発生した不具合の事例

H鋼を残置させた為に他社JVが施工不能となる不具合が発生した。

人間は忘れる生き物であるので不具合・事故等を語り継ぐことによって安全に対する心掛けを持つことが大切である。

11月18日は土木の日であるというお言葉を教えて頂きました。漢数字で書くと土木になると謎かけのようなもので納得させられました。

次に執行役員 建築総本部 調達・見積総合センター 所長 三澤 正俊様よりご講和があり主に

①建設業を取り巻く環境と課題

②サプライチェーンの強化

2つの事項についてお話しを頂きました。

①建設業を取り巻く環境と課題

10年後には128万人減少

2014年度343万人

2015年度334万人

1年間で9万人減少

女性の活躍推移

建設業15%程度

労働賃金の推移(年取)

2014年度 408.6万円

2015年度 432.7万円

5.9%増

新規入職者の増(90万人目標)

2014,15年度 4.1万人

外国人 1.4%

全国全作業員3万8千人に対して513人

労働時間の推移

2014年度 2091時間

2015年度 2081時間

0.7%の改善

上記のような近年の推移である。

②サプライチェーンの強化

現在から2020年の対応

兼喜会との連携強化、グループカの一層の強化が不可欠  
困難な需要と供給のバランス調整、技能労働者の激減

↓

ボトルネック工種への対応→多能工スキルの習得

2020年以降

社会保険加入促進(1次業者契約)→2次下請

今後確実に加入することが見込まれる。

冷静に考えて熱く実行

相対するバランスを極に考えて実行することを教わり  
ました。

次に安全環境本部長 伊藤 勝啓様よりご講和があり主に社会の物差しについてお話しを頂きました。

1. コンプライアンス
2. 企業理念
3. 企業倫理
4. 企業の社会的責任 (CSR)
5. 社会貢献
6. 顧客第一主義
7. アカウンタビリティ (説明責任)
8. ディスクロージャ (情報開示)

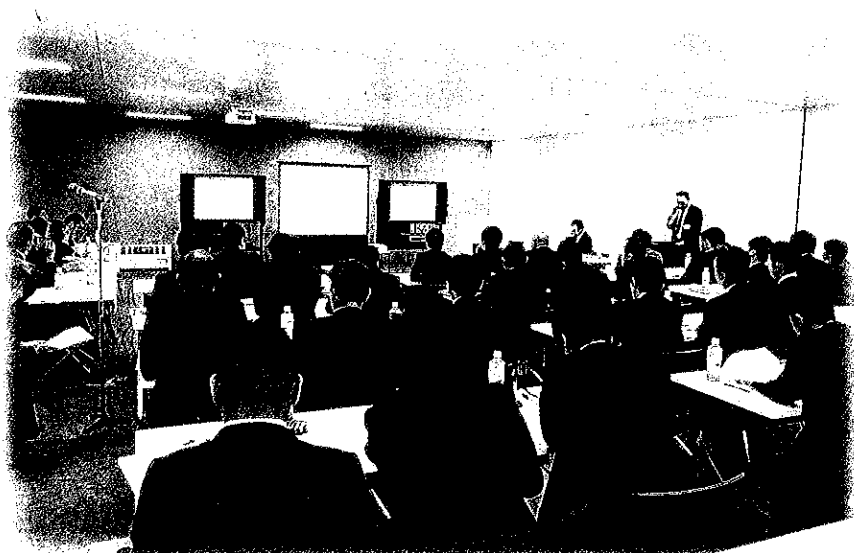
労働災害は主に業務災害と交通災害の2つに分けられる。

- 労災隠しは絶対にしてはならない。
- 死傷病報告の未提出又は虚偽記載。

死亡事故を起こした現場に向かったお話しが特に印象に残っています。高所からの墜落、転落、作業

内容を変更した時は再度KY活動をして作業にうつるといふ当たり前のことをしなかった為に起きた死亡事故ではなかったのだろうかと思いました。死亡事故に限らず、自分の身は自分で守り、危険な作業はしない、させないということを肝に銘じ安全第一でいこうと再認識致しました。

以上の4名の幹部の方々から貴重な時間を割いてもらいご講和を頂きました。自分が知らないこともたくさん有りとても有意義な時間を過ごすことができました。清水建設九州兼喜会青年部の一員として少しでも現場でお役に立てるように日々、精進して行こうと思います。このような研修に参加させて頂きとても貴重な経験となりました。



福岡支部 東谷英幸

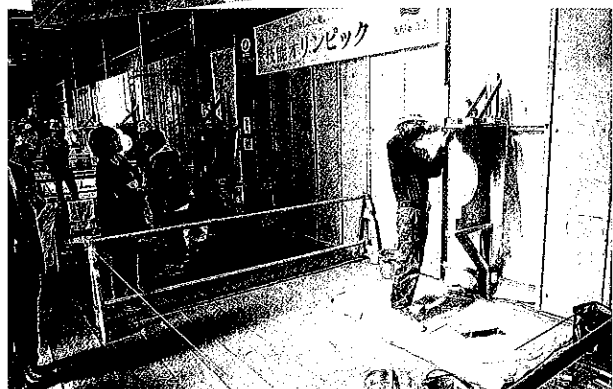
平成28年11月2日(水)11月3日(木)の2日間  
今回の秋の研修会は北海道青年部との合同研修会  
ということで、清水建設(株)九州支店調達部 鈴木課長様、  
九州兼喜会 西村委員長、九州兼喜会青年部34名、  
清水建設(株)北海道支店 上杉副支店長様他2名、  
北海道兼喜会 櫻田会長様他2名、北海道兼喜会青年部  
16名、総勢58名にて福岡で開催させて頂きました。

1日目は福岡空港国内線旅客ターミナル再整備  
工事の現場見学をさせて頂きました。まず、会議室にて  
矢富計画長より工事概要のご説明を受けた後、現場を  
案内して頂きました。空港は営業している中での  
改修工事ということもあり、夜間工事を含め作業は24  
時間体制で行われていること、又作業員の入退場管理、  
工具等の管理など特殊な環境での工事で大変苦心を  
されている中、毎日の作業が進められていることが  
理解できました。この見学会を今後の空港作業所  
での工事に活かしてまいります。

2日目は技能オリンピックの見学を九州兼喜会  
青年部、北海道兼喜会青年部に加え北陸兼喜会青年部

11名も参加させて頂きました。九州各県9支部より左官、  
型枠大工の職人さんが集い行われました。技能  
オリンピックを見学させて頂いて思ったことは、各職人  
さんの技術はもちろんのこと、真剣さ、本気度が伝わる  
素晴らしい大会だったことです。型枠大工さんの  
スピード、左官さんのきめ細やかさ等、素晴らしい技を  
見ることが出来ました。又出場した選手の家族が普段  
見ることが無いお父さんの仕事ぶりを間近で見ることが  
出来るのが更に素晴らしい有意義な大会と感じました。

最後になりますが、今回の研修会に多大な協力を  
頂きました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。



# 兼喜会議事録

## ○理事会

平成28年8月4日(木) 16:00～

場 所：兼喜会事務所  
出席者：篠森会長他10名  
調達部 谷口部長 様

### 【議題】

1. 全九州役員会の件
2. 瀬戸内オープンの件
3. 青年部
4. その他

## ○全九州役員会

平成28年9月9日(金) 14:00～

場 所：大分オアシスタワーホテル  
出席者：篠森会長他15名

### 【議題】

1. 平成28年九州兼喜会・災害防止協議会中間報告の件
2. 瀬戸内オープンの件
3. 青年部
4. 技能オリンピックの件
5. その他

## ○理事会

平成28年10月4日(火) 12:00～

場 所：兼喜会事務所  
出席者：篠森会長他8名  
調達部 谷口部長 様

### 【議題】

1. 全国連合兼喜会支部長会議の件
2. 全九州役員会の件
3. 青年部
4. その他

## ○理事会

平成28年11月8日(火) 12:00～

場 所：兼喜会事務所  
出席者：篠森会長他8名  
調達部 谷口部長 様

### 【議題】

1. 全国連合兼喜会支部長会議報告の件
2. 全九州役員会の件
3. 九州総会の件
4. 全国連合兼喜会第58回定時総会(広島大会)予備登録の件
5. 平成29年瀬戸内オープンの件
6. 青年部
7. その他

## 諸 行 事

### 青年部秋の研修及び 北海道兼喜会青年部交流会

- 11月2日(水) 14:30～
- 福岡空港建設所

### 技能オリンピック

- 11月3日(木) 13:00～
- (株)ミルックス九州機材センター

### 清友会懇親会

- 11月1日(火) 18:00～
- ソラリア西鉄ホテル

## 会員の動静

### 代表者名変更

○井手塗装(株) 28.10.1変更  
旧会員名：井手 勝彦→新会員名：高松 雄史

### 〈訃報〉

謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

○井手塗装(株)  
社長  
井手 勝彦(73歳)  
平成28年9月3日逝去



発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル  
清水建設九州支店内 九州兼喜会

印刷所 川本印刷株式会社  
TEL 092-591-5110